



命が見た夢

西 千遥

B1×1枚 B2×2枚

素材:アクリルガッシュ

制作意図 3枚の絵をそれぞれ「黎明」、「宵」、「暮夜」として、その3つ共通のテーマを「命が見た夢」として制作しました。命と1日の共通点として、必ず終わり、必ず始まるというものがあります。その点に注目して命の一生を1日の空模様の変化とともに表現しました。「黎明」を始まりとして、命の誕生や受け継がれていく伝統を白いドレスでや花束などで表現しました。「宵」を生と死の間にある夢として表現しました。自分の手で作り出した何かを自分が使って欲しいと思う相手に使ってほしいという私の夢をそのまま描きました。「暮夜」を1日の終わりとして、始まりと対照的に命の終わりを表現しました。全ては最終的に大地に還ることを表現したくて、ベールを境界として、あるべき姿として緑や花を表現しました。

感想

作品制作を通じて自分の中の生きていることに対する気持ちが何度も変化しました。生きるとは何か、改めて見つめ直すことができ、感情の整理をすることができました。このテーマで作品を制作することができてよかったです。また、高校三年間で学んだ織物制作や染色の技術を使うこともできて、私の三年間の集大成になったと思います。協力してくださった先生方ありがとうございました。